

次代につなぐ 儲かるピーマン経営の育成 夏秋ピーマンのソーラー自動かん水による 増収、高品質生産()

【背景・目的・成果】

電源のない中山間の野菜畑でも自動かん水(省力)ができるとともに、ピーマンの尻ぐされ果発生を抑え収量、品質を高められる技術に着目し普及拡大に取り組みました。但馬ピーマン産地(11ha)において約2割の面積で導入され、これからのピーマン経営を支えていく技術として期待されています。

1 技術着眼とコーディネート(専門技術員)

- ・平成18年、国研究開発の「日射制御型拍動灌水技術」に着目、豊岡農業改良普及センターと連携し実証に挑戦
- ・地域別研修や広域実証活動で普及指導員らと情報を共有化し、現地研修で活用技術をレベルアップ



技術評価と活動PR (近畿野菜技術研究会等で活動紹介)

2 産地へ提案と技術フォロー(普及)

- ・普及指導員が次代のピーマン経営像『人と環境に優しく増収益』を提案、現場の課題と誘導方向を整理
- ・国普及推進事業を活かして豊岡、新温泉、八鹿、和田山での広域実証展示にチャレンジ



JA但馬ピーマン部会の研究活動として誘導

3 高度技術の確立・改良(試験研究)

- ・農業技術センターでは技術の改良や利活用マニュアルづくりをすすめ、技術を完成



普及指導員の技能アップにも貢献

4 導入促進のための施策支援(県行政)

- ・県野菜振興対策事業(実証ほ)や元気な農業推進事業(JA事業主体)等で技術の導入を積極的に支援



専門技術員は農業現場と研究、行政を結ぶ役割を担っています。ピーマン産地の課題解決と活性化を進めるため、農業改良普及指導員を応援しながら技術の改良や産地への技術導入が進むよう工夫を重ねています。

【技術の活用】

このかん水技術は比較的低コスト(約15万円/10a)で省力化、減肥、増収(収量アップ(約6%)と品質向上(7、8月の障害果発生率11.2%→6.5%))が期待できるので、軟弱野菜、トマト、花、果樹など他作物への応用も検討しています。